

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0372200501
法人名	社会福祉法人 志和大樹会
事業所名	グループホーム ゆいっこ
所在地	〒028-3453 岩手県紫波郡紫波町土館字関沢24-1 (電 話) 019-671-7155

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成19年9月21日	評価確定日	平成19年11月13日

【情報提供票より】(平成19年9月8日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 5 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 8 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 7.3 人	

(2)建物概要

建物構造	木造平屋建 造り		
	1 階建て	1 階 ~	階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	無	その他実績	円
敷 金	有(円)	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無		有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円	
	夕食	円	おやつ	円	
	または1日当たり 1,200 円				

(4)利用者の概要(9月21日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 82 歳	最低 72 歳	最高 94 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	①志和診療所 ②しわ歯科
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「ゆいっこ」の由来は、「結い」(田植えなどの時にお互いに力を貸し合う)の語源にちなんだものである。ホームは、田園の広がる紫波町の西側の高台に位置し、田園の中を横断する高速道や国道、県道を往来する多くの車が目に映る。また遠く東には、北上山地の名峰早池峰連峰の山々を望むことができ、周囲も緑に囲まれ四季折々の変化を楽しめるなど恵まれた自然環境にある。天井の拭きぬけから差し込む光がほどよく、換気、空調への配慮もよく、利用者が快く過ごせるような工夫や配慮がなされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価での改善課題は、介護計画の評価、見直しのあり方や、ホームの事業方針に対する職員の意見反映などであったが、介護計画は3ヶ月ごとに評価、見直しが行われ、ホームの事業方針も職員の意見を反映したものとなっている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自分たちが日々実践している介護のありのままを評価しようと、全職員が評価項目の記述を手分けし、話し合いや、修正、調整を繰り返しながら真剣に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は管理運営や経過報告などに重きをおいている傾向にある。今後は、今回の評価の機会を契機に、介護の実際やホームが抱えている改善課題等について、委員各位から意見や提言をいただけるような方法で取り組みたいとしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	定例の家族会では、運営の経過報告や家族の思いや要望を聞き、家族との交流や親睦を深める機会として大切にしている。また月1回発行する広報「ゆいっこ通信」を送付する際、利用者一人ひとりに寄せたお便りや写真、金銭管理管理報告書を同封するなど、家族との連携に努めている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の一員としての自覚のもと、小学校・保育園・自治会などの行事等に積極的に参加している。また隣近所への散歩、軒下訪問、ゲートボールの方々との寄り合い話に参加するなど、ホーム理解や友好関係づくりの輪づくりに積極的に取り組んでいる。最近では、近隣の農家の方々よりの野菜の差し入れもあり、また普段着でお茶のみに訪れる方々も見えるようになり、連携の深まりとともに、馴染み関係が広がってきている。

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念「一人ひとりに合った役割のある生活」をつくり上げ、家庭的(職員は擬似家族意識)な環境の下、職員・利用者が共に支え励まし合いながら、喜びや楽しみを分かち合えるような実践に向けて取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングや職員会議などでは、利用者一人ひとりの生活の実際に、理念がどのように反映されているかについて、掘り下げた話し合いを行い、理念の共有を意識しながら日々の取り組みがなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校の運動会、にこにこミニ運動会(保育)参観、自治会主催の敬老会参加、散歩時での立ち話等、更には近隣の方々が普段着でお茶のみに来訪いただけるきっかけ作りとして、軒下訪問立ち話などにも取り組みながら交流の輪を広げている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の評価では日常的な現場の実践にかかわりながら、全職員で自己評価の記述に取り組んだ。評価することの難しさや実践の分析、表現のあり方などの話し合いや、修正を繰り返しながら、評価の意義や理解に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成19年8月27日に開催されたが、運営や報告に重きをおいている傾向にある。今回の自己評価を契機に、「ゆいっこ」が抱えている改善課題等サービスの向上に直結するご意見やご提言をいただくようにしたいとしている。	○	運営推進会議は、事業所の取り組み内容や具体的な改善課題を話し合い、地域から理解と支援を得るための貴重な機会であるので、率直な事業所の実態など、ホームの身近なテーマを定めて意見、提言を求めホームの改善課題解決に向けた取り組みがなされることを期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	他のグループホームとの交換研修や町の援助による講話の実施にも取り組み、その経過や課題などを町の担当者にも報告し、積極的に町当局へ働きかけるなど、協力関係の構築に取り組んでいる。	○	昨年は、町当局からの援助を頂きながら、認知症理解やケア啓発のための講座を8回催したが、今年度はまだ行っていない。関係団体からの講座の継続要望もあることから、町との連携を密にしながら実現に期待をする。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや、金銭管理、健康状態などは面会時、若しくは定期的に発行する利用者ごとのお便り「ゆいっこ通信」、写真などでお知らせしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定例の家族会議を開催し、運営報告、家族からの要望(苦情)を頂くように配慮している。家族会への出席率も良く家族の反応は良好で、面会者も多い。なお、時には家族からの電話によるご意見等をケアに活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が異動や離職したとき、また利用者が退所したときは、利用者には隣接する法人の特養(本家と言っている)へ引越したなどと話題とするなど、利用者への影響を最小限にするための心遣いをしている。なお、退職する職員にはお別れ会を設け利用者からねぎらいの言葉と花束を上げ、その情景を広報誌に掲載している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	その日その時がマニュアルとして機能するような認識で介護に当たっている。研修プログラムを作成し、また職員の経験や力量を考慮しながら計画的に内外研修への参加に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との「相互体験交流」や事例検討会などを通じて、事業所外で学んだり、感じたことを全職員で話し合い、サービスの向上に活かすよう取り組んでいる。	○	他のホームとの相互交流は、研修や講和では学ぶことのできない具体的な体験実習の場となり、学び得る効果が大きく、併せて親睦の一助となり図り知れない相乗効果があることから継続を期待する。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族にホームの普段の生活やサービスの実際を見学してもらい、また実態を説明したり、相談に応じたり、ホームの雰囲気に馴染めるような対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の日常的な活動からの発見や驚き、学びは大きいという。訪問当日は、昼食の準備や後片付けなどが利用者主導で行われ、協働する職員の賞賛や励ましに利用者の一人ひとりの満足げな微笑ましい場面を垣間見ることができた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を導入し、利用者本人を中心にした視点で利用者の思いや意向の把握に努めている。特に、利用者のこれまでの暮らしや仕事や得意なこと、好む話など、利用者本位のニーズに応えることができるような事柄の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式の導入は、利用者の可能性を見出し、その機会をつくって引き出すことに役立っているという。介護計画は、本人・家族の意向を反映するため、スタッフによる評価や意見・アイデアをもとに支援目標、内容を作成し、家族に説明し理解を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケア会議(ケアカンファレンス)を定期的実施しており、その中でのモニタリング(評価)を踏まえ、利用者の状態変化に応じて、スタッフで話し合いを行い、また家族とも話し合い、計画の検討見直しを行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の外出・外泊、通院支援、個別の希望を取り入れたドライブなど、希望や要望に応える柔軟な取り組みをしている。なお、共用型の通所サービスは、環境条件は整っているが実施に至っていない。	○	共用型の通所サービスの未実施は、職員の不足が原因になっている。グループホームを活用した認知症の方への通所サービスの重要性・必要性について法人に理解してもらうことが大切と考える。今後の具体的な取り組みを期待します。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医による週1回の訪問により健康状態を見てもらい、また、急変対応にも快く往診してもらっている。夜間の緊急対応には、ホームの近くに居住する看護師が即応できる体制にあり、夜勤職員の支えとなっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、重度化した利用者については、現状の対応や環境でいいのか等について家族と話し合いを重ね、また嘱託医とも連携を密にしながら、職員共々に症状の変化を共有しながら介護に当たっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねないように、例えば入浴や排泄時の対応に応じたマニュアルを作成するとともに、ホーム内の2ヶ月1回開催する勉強会などを利用し職員の意識の向上を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者は「その日その時」が旬だという。笑顔が何回見られるかがスタッフの技量にかかわるともいうが、職員は一人ひとりのペースや言動に気配りをしながら、ゆったりとした時間の流れを作っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けの一連の役割や出番を職員は良く把握して、職員と利用者が寄り添いながら、気配り、目配り、励まし、賞賛の明るい掛け声が飛び交う場面を散見できた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、利用者の希望を活かし、回数や時間的な制約はしていない。自立に近い方は、夕食後毎日のように入浴をしている。少なくとも週3回は入浴している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の役割は豊富で、例えば、ホットケーキ作りやかぼちゃ団子作り、炊事、畑仕事、雑巾縫い、茶碗拭きなど様々の分野で発揮し、また趣味のご詠歌の稽古、楽しみや気晴らしも、テーブルサッカーや、ホーム内での徒競走・パン食い競争、トランプ遊び、小学校の学習発表への交流参加など、毎日のように楽しく過ごせるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	隣接する特養への散歩、季節に応じた自然探索ドライブ、買物や食事会、小学校との交流、週1回の喫茶会など、個々の希望に応じて外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠することはない。帰宅願望などで外に出るような状況のときは、「一緒に連れて行ってね」などと同行しながらの心得た対応をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人内の避難訓練は定期的に行われているが、ホームの特性から、独自の訓練計画を企画しており、特に夜間における非常安全対策の体制づくりを検討していることに関心を抱いた。その手立ての一つに「蛍光タスキ」があるが、現在、実施計画を思案中である。	○	「夜間における非常安全対策の体制づくり」は、ホームの特性からしてすばらしいアイデアと考えられるが、まだ未実施であることから、早急に付随する諸条件等のシュミレーションを検討して万全な対策を講じられることを期待します。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のチェック表を作成し、朝食、10時、昼、15時、夕食の5回の摂取量が記録され、摂取量の少ない利用者には、捕食、嗜好品で対応し、水分補給等への配慮も十分になされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	吹き抜きの天井から差し込む程よい光、窓から望める季節の彩りもある共有空間は、利用者の快適な生活感を予感させる。共有できる空間は随所があり、読書コーナーや談話コーナー、体を横たえてくつろげる畳み部屋など、居心地よく過ごせる工夫や配慮が見られる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前に、家具類など使い慣れた物品を持ち込むよう説明し、お願いしているが、持込をしているのは寝具類が中心となっている。今後、広報誌「ゆいっこ通信」や家族会等を通じて理解を深める話し合いしていきたいとしている。		